

# 第1学年6組 社会科学学習指導案

日時：平成28年10月12日（水）

場所：1年6組教室 指導者：佐々木卓美

1 単元名 ヨーロッパ州

2 単元の目標

- (1) EU統合の背景や地域の変化に関心をもち、その特色について意欲的に追究しようとしている。  
(社会事象への関心・意欲・態度)
- (2) ヨーロッパ州の文化の共通性や多様性について多面的・多角的に考察している。  
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) さまざまな資料を活用して、EU統合の利点や変化を適切に読み取っている。  
(資料活用の技能)
- (4) 生活、文化、産業の特色などについて理解し、その知識を身につけている。  
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元設定の理由

この単元はEUを中心とした政治・経済的統合が、人々の生活にどのような影響を与えているのかを中心に考え、ヨーロッパの地域的特色について理解する内容である。これまでの教科書では、地域統合を好意的に捉えられる側面が多かった。しかし、イギリスの離脱という事実が示すように、課題となる側面に注目されるようになってきた。授業に意欲的な生徒が多く、ペア学習やグループ活動などでも、真剣な取り組みが見られる。しかし、具体的な根拠に基づいて自分の考えをもち、表現する力が身につけているとは言えない。そこで、この単元を通じて、EUの利点と課題となる点を具体的な資料を基に考えられるようにしたい。そしてこれから起こり得る、予想できない社会の変化について主体的に考えられる姿勢を身につけさせたい。

4 指導計画（総時数6時間）

- (1) ヨーロッパ州の自然環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (2) ヨーロッパ文化の共通性と多様性・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (3) ヨーロッパの統合と人々の生活の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (4) ヨーロッパの農業の今・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (5) 国境を越えて結びつく工業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (6) イギリスの離脱から見るEUの課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・1（本時）

5 研究主題・副主題とのかかわり

本時では、現在社会の注目を集めているイギリスのEU離脱を扱うことで、社会の変化を主体的にとらえる姿勢を培えると考ええる。また、具体的な資料を基に自分の考えをもち、話し合いや発表を行うことで、根拠を基に思考・判断する力を育むことができると考える。

## ポイント② 学習課題の工夫

タイムリーな話題であるイギリスのEU離脱を取り扱うことで、イギリス国民の視点でEUの課題を多面的・多角的に考えさせる。さらにそこから視野を広げ、EU全体の課題について考えられるようにする。

## ポイント③ 資料選定・活用の工夫

根拠を基に思考・判断する力を育てるために、統計データなどの具体的な数字で表された資料を用意した。これらを基に考えさせた上で、判断の根拠を提示しながら発表できるようにする。

6 本時の目標

EU離脱を国民が支持したイギリスを基に、EUの課題を多面的・多角的に考えることができる。

7 学習過程

段階	学習活動・内容	時間 形態	○留意点 ◆評価 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">研究主題とのかかわり</span>
導入	1 EU統合のメリットを確認する。 2 EU加盟への思いが強かったトルコを紹介する一方で、イギリスのEU離脱に触れる。 3 本時の課題を把握する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イギリスのEU離脱から見える、EUの課題とは何か。</span>	5 一斉	○ スライドを活用し、短時間で振り返りが行えるようにする。 ○ メリットから加盟を望む国がある一方で、離脱を選択した国が出たことに触れ、課題に目を向ける。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ポイント② EUの課題について、様々な立場から考え、話し合いができるようにする。</span>
展開	4 今回のイギリスの国民投票における、離脱派の公約に触れ、内容を確認する。 ・移民の数の制限 ・EU拠出金の使い道について 5 選挙公約から、イギリスが考えるデメリットを明らかにする。 (1) 移民の増加とEUへの負担からデメリットを把握する。 ・移民の増加による社会保障費の増大 ・金銭的負担に比べての恩恵の少なさ ・国家間の不平等さ (2) 発表を行う。 6 EU全体の課題を考える。 (1) EUの難民政策に不満を抱く国を知る。 (2) EUの課題を考える。 ・問題が国家を超えて広がる。 ・取り決めが全ての国を拘束する。 (3) 発表を行う。	5 一斉  20 (5) 個人 ↓ (12) 班 (3) 一斉 12 (9) 班 (3) 一斉	○ 選挙公約に触れることで、イギリス国民が離脱を選択した背景に迫り、課題を考える手立てとする。 ○ 次の展開に備え、EU枠内の行き来が自由にできるということに触れておく。 ○ 班は原則4人とし、多くの生徒に発表の機会を与えるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ポイント③ 新聞記事、統計資料など多様な資料を分析することで、多面的・多角的な思考力・判断力を養う。</span> ◆ 選挙公約を踏まえて、資料から課題について読み取ることができているか。 (机間指導・発表) ○ 班ごとに発表を行い、3班程度の発表とする。 ○ 難民が最初に難民申請を出した国に重い責任が発生するダブリン規約を取り扱い、難民が最初に到達する国々から不満が強い事実に触れる。
まとめ	7 本時のまとめを行う。 (1) EUの課題を踏まえ、地域的にまとまるためには何が大切かを考え、ノートにまとめる。	8 個人	○ EUの課題を基にして、自分の考えをまとめる。 ◆ 課題について自分の言葉でまとめることができるか。 (机間指導)